



家庭はすべての教育の出発点と言われます。「ねっこりん」は鳥取県家庭教育応援キャラクターです。皆さんとともに応援し続けます。

令和6年度も間もなく終わろうとしています。本年度も皆様には大変お世話になりました。近年、地域のつながりの希薄化による相談相手の不足や、共働き世帯の増加に伴う保護者と子どもが関わる時間の減少、ネグレクト、児童虐待、不登校の増加などが問題となっています。また、多様な価値観や情報機器の発達で様々な考えに触れることも多々あります。「子育てしにくい世の中」と言われますが、現状を把握し、保護者のニーズに合った支援をしていかなければなりません。そのためには、研修等で現在の状況や新たな考えを学び、自分自身をアップデートする必要があります。本年度は、以前にも増し、たくさんの方に研修に御参加いただきました。子育て・家庭教育の重要性が以前に増し高まっているのかもしれませんが。

さて、本年度も「切れ目ない、きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に子育て・家庭教育支援を推進してきました。本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、御一読いただき、本年度を振り返っていただけたらと思います。

### SNS 始めました！ぜひフォローしてください

You tube



Instagram



Tik Tok



X



### 子育て・家庭教育支援関係者研修会(全2回)

#### <第1回>県の取組と現代課題の把握 (7月30日)

- ①県の家庭教育支援について (県社会教育課)
- ②シン・子育て王国とっどりの取組 (県子育て王国課)
  - ・家庭教育とは全ての教育の出発点。子どもの心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うもの。そのための支援として県の取組を紹介しました。
- ③「ネット社会の現状と依存に陥る若者たち」 (県社会教育課)
  - ・若者のインターネット利用状況とその影響を踏まえ、SNSでの注意点やインターネットとのよりよい関わり方についてみんなで考えました。



#### <第2回>地域人材を活かした子育て家庭教育支援の取組及び保護者との関わり方 (9月25日)

##### ①実践発表

株式会社エミリングジャパン 佐藤映美 氏

- ・キッズ食育トレーナー・ロースイーツクリエイター認定講師として、活動。7つの「こ食(濃食・粉食・小食・固食・孤食・個食・子食)」や保護者をもっと楽に、楽しい食育が家庭でできるよう取り組んでいる。

ゆりはま子育てネットワーク くぶくぶ 山増香里 氏

- ・子育て世代の課題を克服するため、遊びの場づくりや学びの機会の提供、産後ケアなど様々な取組を行い、みんなで(地域ぐるみで)みんなの子どもを育てる環境づくりをめざしている。

##### ②講義・演習

「子育て支援におけるカウンセリングマインドの活かし方」

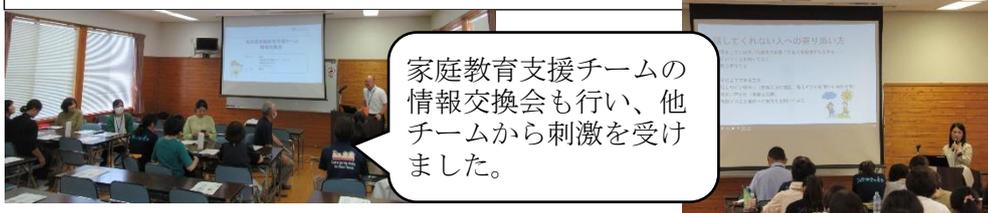
臨床心理士 宮田知子 氏

- ・カウンセリングのスキルや保護者と関わる上での手順を聞いたり、リフレーミング(物事の捉え方を変え、別の視点から見ること)についての演習などを行いました。



- カウンセリングのスキル
- 1 具体的な行動
  - 2 質問の仕方
  - 3 うなづき・あいづち
  - 4 繰り返し
  - 5 要約・明確化
  - 6 反映
  - 7 問題のリストアップ
  - 8 沈黙

家庭教育支援チームの情報交換会も行い、他チームから刺激を受けました。



## 令和6年度家庭教育関係者研修会（「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテーターフォローアップ研修会）

【11月22日】

○講義・演習

「保護者同士の関係づくりに大切なこと」

講師：清國 祐二 氏（大分大学大学院 教育学研究科 教授）



大分大学大学院の清國教授をお招きし、標記研修会を開催しました。清國教授には、研修の中で「マルチトリーメント（不適切な養育）」と「サーバントリーダーシップ（奉仕型リーダーシップ）」を中心に、保護者の関わり方が子どもの成長に大きく影響することや保護者のニーズに応えることなど演習を交えながら教えていただきました。

「教えるではなく、気づくように日常でも関わっていききたい。」「保護者の欲求に対応することの難しさに矛盾を感じていたため、いかに保護者のニーズを考え、行動に導いていくかのヒントが得られました。」「普段、保護者や子どもと関わる中で、心に留めておいた方がよい考えでした。自分の行動を反省するための助けにもなりました。」などの感想があり、充実した研修となりました。



県内の家庭教育支援チームは何チームある？



地域の実情に合わせ「できることから」取り組まれています。

県内に、11チーム(R7.3 現在)あります！

活動内容

- 訪問型(ベルト型)家庭教育支援
- 親子参加型イベントを中心に保護者の気づきや学びを推進
- 保護者の仲間づくり
- 子どもたちの居場所づくり
- 困り感のある保護者の支援や研修会の実施
- 子育てサロンの開催
- 情報提供
- 子育ての悩み相談 等

1000社達成！

企業は家庭の応援団  
とっとり家庭教育推進協力企業

令和7年3月末現在

1054社と

協定を結んでいます。



「とっとり子育て親育ちプログラム」を改訂しました！

本年度はプログラムの改訂を行いました。新プログラムの追加や、QRコードから関連資料が見られるよう工夫しました。ファシリテーターの方には改めて冊子を配布するとともに、今後もたくさんの活用をしていただけるよう周知していきます。



【プログラム URL】

会議でたくさんの意見が出され、毎回時間が足りないぐらい白熱した協議となりました。

【担当者より】

本年度も皆様には大変お世話になりました。近年、目まぐるしく時代が変化しています。みなさん、黒電話を思い出してください。一家に一台の黒電話が懐かしく感じるのではないのでしょうか。その後ボタン式の電話、バッテリーの大きな携帯電話、手軽な携帯電話、そして今では一人一台スマートフォンが当たり前の時代になっています。また、紙からデジタルへ、ネットが必須の時代へと変化しています。

最近私が感じているのは、「時代に取り残されない」、「自分自身をアップデートしていかなければならない」ということです。私は、本は手でめくりたい派、ニュースは新聞派、お盆・彼岸は墓参り派、というように昭和がしみ込んでいますが、我が子も含め若者と話をする中で段々と気づかされてきました。

子どもたちが育つ環境は、私たちの時とは大きく変化しています。その時代の考え方や情報を取り入れることを受け入れつつ、しかしながら、子育てについて変わらない親の愛情の注ぎ方、親子で関わる時間の大切さなどを伝えていけたらと思います。